

貧困に対する支援

専門教育科目 / 2 単位 / T 授業

担当教員 日田 剛

■使用テキスト

一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集
『最新 社会福祉士養成講座4 貧困に対する支援』中央法規出版 2021

◆参考テキスト

講義概要・一般目標

公的扶助は国民の生存権を保障する制度として機能することが求められている。そのため、その制度の内容及び運用が生死を分けるといっても過言ではない。

また、貧困に関する問題が複雑化する現代において、この科目では、低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際を知り（DP6）、相談援助活動において必要となる生活保護制度や生活保護制度に関わる他の法制度について理解することを目的とする（DP7）。生活保護法を中心に、貧困への支援の理念や意義、その内容を学ぶとともに、ソーシャルワーカーの役割について考える（DP3）。

到達目標

- 1) 貧困概念の変遷、歴史について理解する
- 2) 生活保護制度と関連制度の仕組み、生活保護の実施と関係専門職の役割を理解する
- 3) 低所得者の動向と課題、低所得者の支援に関する社会保障制度について理解する

実務経験のある教員による教育

実務経験（社会福祉士等 10 年）のある担当教員（日田）による実践に即した指導をおこなう。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

学習指導

第1章 公的扶助の概念

この章のポイント

各国に共通する公的扶助制度の基本理念や考え方、その仕組みや内容等を学習することで、公的扶助の概念とその範囲について理解する。また、社会保障制度の中心となる、救貧制度としての公的扶助制度と防貧制度としての社会保険制度を対比することで、公的扶助の基本的性格とその特質についての理解を深める。

公的扶助の意義と役割・機能について、セーフティネット機能・ナショナル・ミニマム機能を中心として学習する。

第2章 貧困の概念と貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境

この章のポイント

この章では、貧困概念についての理解を図る。また、貧困状態にある人への対応や支援を考える上で、貧困・貧困状態にある人とはどのような人を指すかを学ぶ。最後に貧困状態にある人を取り巻く環境について明らかにする。

第3章 貧困の歴史

この章のポイント

貧困は古くて新しい問題であり、人間の歴史とともに変遷を繰り返している。その問題の現れ方や捉え方、対応策も変わっていきっている。歴史的変遷を概観し、貧困者の権利と福祉を保障する仕組みがいかにして確立してきたのか、そのプロセスを理解する。

第4章

この章のポイント

生活保護法は憲法 25 条の理念に基づき、生存権の保障を具体的に実現する重要な制度である。その目的および基本的な考え方となる 4 つの原理と、保護を具体的に実施する際の 4 つの原則について学習する。また、生活保護制度の財源・予算について理解し、統計資料をもとに示した被保護人員や被保護世帯の状況から、現在、生活保護を受給している人・世帯が置かれている状況を、総合的・多角的に学ぶ。

第5章 低所得者に対する法制度

この章のポイント

低所得者対策の主要施策である生活困窮者自立支援制度、生活福祉資金貸付制度や、ホームレス対策などの制度、施策について、その概要を学ぶ。

第6章 貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割

本章では、貧困に対する支援を実施する関係機関、特に福祉事務所の全体像を理解する。また、生活困窮者自立支援制度に規定されている自立相談支援機関や、関係する専門職についても学ぶ。

第7章 貧困に対する支援の実際

貧困に対する支援を担う社会福祉士の役割と基本姿勢、生活保護制度や生活困窮者自立支援制度における相談支援の仕組み、流れを学ぶ。また、具体的な事例を通して社会福祉士として、いかに人と環境に働きかけていくことができるかを考える。